

## 鶴見区区政会議 平成 30 年度第 1 回地域保健福祉部会議事録（要旨）

1 日 時 平成 30 年 7 月 2 日（月） 19 時 00 分～20 時 50 分

2 場 所 鶴見区役所 4 階 403・404 会議室

3 出 席 者

（委員）

山田部会長、柴田副部会長、笹原委員、高田委員、伴委員、  
久木委員、吉江委員、藤井委員

（区役所）

河村区長、嶋原市民協働課長、谷上保健福祉課長、松井子育て支援・保健担当課長、  
貴志生活支援担当課長、秋山保健福祉課保健担当課長代理、  
河本保健福祉課福祉担当課長代理、金森保健副主幹兼担当係長、  
古田保健福祉課担当係長、野上市民協働課担当係長兼保健福祉課担当係長、  
泉谷市民協働課担当係長、大田保健福祉課担当係長

4 議 題

- 1 平成 30 年度鶴見区区政会議の進め方について
- 2 平成 29 年度鶴見区取組み実績・評価について
- 3 その他

5 議 事

（1） 河村区長開会のあいさつ

（2） 平成 30 年度鶴見区区政会議の進め方について説明

➤ 委員からの質問・意見なし

（3） 平成 29 年度鶴見区取組み実績・評価について説明

◇ 地域全体で支え合う地域コミュニティづくり

➤ 委員からの質問・意見等

・TSURUMIC AWARDの実施により地域活動協議会（以下、「地活協」という）の認知度向上につながっているとは思えない。次回、どう変えるのかという提案もない。

・地活協へどのように加入してもらうかではなく、入らないと今後地域が大変

なことになるということを伝える必要がある。

- 地活協と地域振興会、地域社会福祉協議会（以下「地域社協」という）などが混在していて、予算を含めバラバラに活動しているように感じるので、一本化すればはっきりしてよいと思う。
- 地域の盆踊りなど地活協立ち上げ以前から行われている行事の主体が地活協になっても、地域住民にはあまり分かっていないと思う。
- 地活協の本来の姿について、もう一度説明してほしい。
  - 地域振興会は地域のまちづくりや様々な課題を解決していく団体である。しかし、町会に加入せず、コミュニティや活動に関わらない住民が増えてきたため、地域住民だけでなく企業や事業者、まちづくりに関心のある多種多様な方々が活動に関わっていく大きな仕組みとして地活協がある。
- 町会に入っていない人は町会費で防犯街路灯が点いていることなどを知らない。町会に入らず町会費を払わなくても災害時等には支援を受けられるが、受益者負担になっていかない限り、これからの地域運営はできないと思う。
- 地域振興会イコール地活協と捉えている地域や、地活協の意味がはっきり分かっていない地域もある。地活協は地域社協や地域振興会、子ども会、老人会などの会計を一本化して予算執行していかなければならない。また、盆踊りなど事業を実施する場合は、地域振興会のみで実施するのではなく、地活協の中で実行委員会を立ち上げてみんなで実施していかなければならない。そういう支援を行っていく必要がある。
  - 地活協は 12 地域で立ち上がっているが、地域振興会や地域社協が中心的な役割を担っているなど状況は様々である。様々な人や団体等が連携する仕組みというのが本来めざすべき地活協の姿であり、まちづくり支援センターが地域でその支援を行っている。  
地域の特性や地域の活動状況、その進み具合には差があり、地域がいろいろな人を巻き込んで自分たちで決めていく、自律した運営を継続していただきたいと思っている。
- 現状の地活協では細かいところまでの詰めができない。これまでのやり方を

変えようとするればみんなの協力や意識がついてくるかわからない。地活協の組織も最終的には意見の吸い上げ等ができるようにしていかなければならない。

◇ 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域福祉の推進

地域福祉力の向上について説明

➤ 委員からの質問・意見等

・地域福祉コーディネーター（つなげ隊）が地域では非常にわかりにくい。鶴見区から社会福祉協議会に委託し実施されているため、社会福祉協議会と地域福祉コーディネーターとの直接契約となっている。地域活動協議会の本来の取組みは高齢者対策であるため、この事業は再度地域活動協議会に戻す必要があると思う。

また、地域福祉コーディネーターが地域の運営会議等に参加している地域と参加していない地域があるが、これについて事業評価はしているのか。

→ 事業実施する中で、事業の進捗管理も行っている。また、事業報告で課題や課題解決に向けた話し合いを行い、次年度に向けた検討も行っている。さらに、地域福祉コーディネーター（つなげ隊）からも地域課題について提案していただいている。

→ 社会福祉協議会で、毎月つなげ隊連絡会を開催し、各地域の情報交換を行っている。

また、各地域活動協議会の運営委員会の名簿を確認したところ事務局や委員としてつなげ隊の方が参加されている。どのように参画されているかは把握していないので、今後地域担当等と情報共有していきたい。

→ 各地域活動協議会への地域福祉活動助成を、各地域の意見や区政会議全体会等の意見をいただき、地域活動協議会への一括補助金とすることも含めて検討していく。

・つなげ隊の認知度を鶴見区全体で 50%以上の目標にするがあるが、各地域で何%であるかを把握しなければならないと思う。各地域の割合は出ているのか。

→ 各地域（校区別）の割合を公表する。

・6月18日の大阪北部地震時に要援護者の安否確認依頼があったが地域福祉

コーディネーターだけでは対応できない。地域全体で組織づくりを行い対応していく必要がある。

- 地域からの相談について地域福祉コーディネーターや社会福祉協議会に話をしたところ、包括支援センターなどを含めてケア会議を行い、会議内容の報告もしてもらっている。
  - 先日、中学校から相談を受けたが、町会に加入していない世帯であったため町会長は対応できなかった。その世帯から民生委員への相談もなかったとのことで地域の対応は必要とされていないことがわかった。  
また、班長会議時に高齢者の方からもしもの時に相談に行く場所が分からないと言われたとの話があった。つなげ隊の認知度がまだまだであると感じた。
- ☆ 住み慣れた地域で安心して暮らせる地域福祉の推進  
高齢者・障がい者への理解の啓発等について説明
- 福祉マップや交通安全マップなどは活用しないといけない。要援護者名簿について、最近では長寿のお祝いも断ってくる方が増えてきた。今後、要援護者の見守りも大変になってくると思われる。
  - 福祉マップは配付するだけでは意味がない。利用者が活用することで意味があると思う。
- ☆ 健康づくりへの支援  
健康増進意識の向上について説明
- 広報つるみ 6月号で「朝ごはんを食べよう」を掲載してもらった。  
ヘルスマイトに現在 3 人の男性が登録されている。最近は調理講習会への男性の参加も増えている。
  - 健康づくり事業に対する参加者の満足度 80%以上について、目標をもう少し上げていってもいいのではないかと。